



2022 年度事業計画

自 2022 年 4 月 1 日

至 2023 年 3 月 31 日

学校法人多摩美術大学

学校法人多摩美術大学事業計画

中長期計画に基づく、目標達成のための2022年度の主な事業計画は以下の通りである。

(1) 教育・研究運営面の推進計画

◆教務部

【教務課】

- ① 第3期認証評価への対応
 - ・認証評価（大学基準協会）への実地調査等の対応を十全に行う
- ② リベラルアーツの見直し・充実
 - ・リベラルアーツPTにより引き続き、(1)科目配置領域の見直し、(2)これを受けた開講科目の見直し・充実を行う
- ③ 大学院の見直し・充実
 - ・大学院PTにより引き続き、(1)大学院教員の授業担当の見直し、(2)共通選択科目の見直し・充実（リベラルアーツと並行し議論）、(3)特待生制度の提案を行う

【入試課】

- ① 入学者選抜の制度を整備し志願者の確保につなげる（継続）
 - ・他大学との主に一般選抜における日程の再調整をする
 - ・国公立と併願しやすい選抜方法の再考
 - ・入試PT等を通じて試験科目・試験時間の検討を提案
 - ・一般方式（学科試験問題）の内容を再検討する（高大接続改革）
 - ・大学入学共通テストの科目選択を再検討する
 - ・外国人留学生選抜、大学院修士課程選抜の出願条件の見直し
 - ・大学院修士課程選抜の選考方法の再考と内部進学率の向上
 - ・指定校推薦入試の再検討
- ② 学生募集及び入学者選抜の解りやすい情報提供の改善（継続）
 - ・選抜ごとにある学生募集要項の構成見直し
 - ・入試概要（本学サイト）や入試ガイド等に変更内容がわかりやすく案内できるよう校正等を行う（継続）
 - ・出願から受験票発行におけるこれまでの不備や問い合わせに多かった内容を学生募集要項に反映させていく
- ③ 新型コロナウイルスなど発生時の入試体制・運営方法の見直し
 - ・コロナ禍での入試運営方法を検証して、今後の緊急時対応を再構築する
 - ・オンライン入試、地方（現地を含む）入試の検討

- ④ 特別選抜、大学院選抜の運営を再検討（継続）
- ・学事と試験日程の調整
 - ・各選抜での業務運営体制の構築と出願処理作業の見直し
 - ・学内協力体制と業務委託内容（外国語能力）の見直し
 - ・大学院事前面談の運営方法を研究室と共に再検討する

【研究支援課】

- ① 学内研究活動の活性化と情報公開促進（継続）
- ・産学官共同研究受託の増加
 - ・学内における共同研究、産学官共同研究の推進と活性化
 - ・学内研究活動を学外の競争的資金に繋げるための取組み強化
 - ・研究成果の発信強化（成果報告会、ひらめき☆ときめきサイエンス、機関リポトリ活用など）
- ② 競争的資金獲得のための支援強化（継続）
- ・科学研究費助成事業をはじめとする競争的資金申請件数増加に向けた支援強化
 - ・外部業者による科研費応募支援サービスを活用し、研究者の育成を行うと共に、申請件数、採択件数を増加させる
- ③ 公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）と不正行為への対応等に関するガイドラインに基づく体制整備の促進（継続）
- ・不正使用の事前防止のための体制整備
 - ・研究費に関するルールの周知徹底、事例集の整備
 - ・研究推進会議の定例化による問題点の検討
 - ・前年度内部監査の指摘事項改善
 - ・教員と学生への研究倫理教育
 - ・コンプライアンス研修会、研究倫理研修会の開催

◆学生部

【学生課】

- ① 新型コロナウイルス収束を意識した学生支援体制
- ・学園祭やクラブサークル活動を学生会・文化体育連合・芸術祭実行委員会と連携を取りながら、段階的・制限の緩和によりコロナ前に近づける
- ② 休退学率の減少
- ・研究室との情報共有により、休退学の検証を行い、減少に努める
 - ・学生本人が望まない理由での休退学について、学生本人と向き合うことで理由を分析し、学生相談室への案内や奨学金や授業料減免制度を紹介する等、解消へと導く
- ③ 学生寮（オリーブ館）の円滑な運営
- ・寮生が寮則など規律を重んじながら、快適な共同生活を送ることができる環境や雰囲気を作る

- ・前年度のトラブル対応などの経験を活かし、新規入寮者に向けトラブルを未然に防ぐ呼びかけ等を行う
- ・RAの導入・配置をすることで寮生の意見を組み入れ、PDCAを機能させる
- ④ 学生相談・障がい学生の合理的配慮の検証と充実
 - ・学生相談や合理的配慮について、事例などを元に検証を行う
 - ・学生が抱えている問題が解消できるよう、地道に向き合う
 - ・配慮が必要とされる学生にとって満足度の高い対応を目指す

【奨学課】

- ① 学内奨学金制度・授業料減免制度を整備する
 - ・学内奨学金制度や授業料減免制度について、2023年度より見直す内容の詳細を学生の目線やニーズに重点を置いて検討する
- ② 次年度からの学内の奨学金・授業減免について学内外に向けて広報する
 - ・2023年度より計画している学内奨学金や授業料減免制度について、在学生や受験生に向けわかりやすく案内・告知する
- ③ ワークスタディ奨学金を円滑に運営する
 - ・経済的に厳しい学生に有効となるようなるべく多く採用したうえで学内事務部署と連携し作業を担ってもらう体制を強化する
 - ・年間で定められた時間の作業ができない者が出ないようにする
- ④ 学生へのわかりやすい説明を心がけ、また利用しやすいようにカウンターやオンラインの環境を整備する
 - ・コロナの収束を意識し、対面での説明を準備しつつ、オンデマンドによる説明や資料の提供を充実させる
 - ・奨学課の事務や窓口の環境が組織変更を追いついていない点が見受けられるので、学生がより来やすい環境を目指し整備する

◆国際交流センター

- ① 新規海外協定校の増加（継続）
 - ・Cumulus(国際美術・デザイン・メディア大学連合)の加盟により、国際的な本学知名度向上
 - ・国や地域のバランスを考慮した上での、新たな海外協定校の増加・国や地域のバランスを考慮した上での、新たな海外協定校の増加
- ② 提携校への積極的な働きかけによる交換留学生の受入れ増加（継続）
 - ・コロナ禍における交換留学生受入基準の見直し
 - ・交換留学制度だけでなく、共同授業・ワークショップの実施
- ③ 学生が留学しやすくなる制度設計（継続）
 - ・交換留学派遣時期の多様化
 - ・オンラインによる海外プログラムの実施
 - ・学生に対する英語検定試験受験料一部補助

- ・本学留学希望学生のチーム作りおよび他大学とのネットワーク構築
- ・海外大学での取得単位認定方法の多様化検討
- ④ サポート体制の充実（継続）
 - ・外国人留学生に対する英語・中国語・韓国語での対応
 - ・外国人留学生に対する本学webサイトおよびSNSを活用した情報提供
 - ・各部署・研究室からの依頼に対するサポート向上
 - ・コロナ禍における外国人留学生来日にかかる情報収集・提供
- ⑤ 外国語に接する機会を増やす環境づくり（継続）
 - ・学生に対する英語検定試験受験料一部補助
 - ・国際交流パンフレット（英文）作成
 - ・国際交流ラウンジ活用方法の検討
 - ・国際交流パーティー実施による日本人学生と海外留学生の交流促進

⑥ キャリアセンター

- ① キャリア支援の多様化
 - ・キャリア支援システム「タマキャリ」登録者数を在校生の60%（コロナ前の就職希望者割合）とする
 - ・キャリア相談の諸問題の解決に向けた取り組み
 - ・アーティスト支援の講座の開催
- ② 教員との連携強化（継続）
 - ・キャリア支援委員に限らない教員コンタクトを実施
- ③ キャリアセンターの認知度向上
 - ・低学年向けガイダンスの実施
 - ・多様なガイダンスの実施
 - ・キャリアセンター広報活動の実施
- ④ 外国人留学生への進路・就職支援配慮を要する学生進路・就職支援（継続）
 - ・外国人留学生向けガイダンスの実施
 - ・配慮を要する学生のデータ部内共有

⑤ 附属図書館

① 中長期的な新しい図書館像の検討（継続）

<学内外のニーズを探り、新たな図書館像の明確化を目指す>

- ・図書館利用の実態調査と課題の探索・統計の見直し
- ・卒業生・社会人の学びへの対応及び見学や撮影の対応
- ・収書方針に基づく蔵書構築(選書委員会の活用) と、上野毛写真コレクションの増強

<職員構成を考える>

- ・職員の世代交代のための準備

② サービス（継続）

＜利用者サービス＞

- ・ガイダンスの再考、授業連携、webコンテンツの充実

＜展示を活用した図書館資料のPR＞

- ・貴重書等展示
- ・テーマ展示（丸テーブル・学生との協働）

＜教員・研究室との連携＞

- ・学科推薦図書の定期的なメンテナンス
- ・授業連携・研究室単位のガイダンス

③ 発信と協働・連携

＜図書館活動に関する情報公開＞

- ・ウェブサイトからの情報発信と情報公開の強化
- ・『言語と美術コレクション』公開と利用に向けての検討

＜利用者の意見を反映する仕組み作り＞

- ・アンケート・投書箱などによる意見集約と改善
- ・委員会などを通じた意見の収集とフィードバック

＜他部署との協同・連携＞

- ・他部署及び学術ポータルとの連携
- ・リポジトリの運用

④ 運営・管理

＜設備の更新と検討課題確認＞

- ・図書館システム更新に向けての検討、機器設備の更新、上野毛キャンパス再整備との連携

- ・書庫狭隘化対策（外部倉庫への追加預け入れ）

＜運営・管理の円滑な推進＞

- ・日々の図書館運営を滞りなく行う（業務委託を含む）

◆附属美術館

- ① 展覧会開催（年間3本）…展覧会活動は社会・地域連携活動の有意義なリソースとなると共に、特に博士課程展は本学の教育研究内容の積極的なPRによる存在意義を示す機会となる

- ・「そうぞうのマテリアル」 2022年 4月3日（日）～9月4日（日）
- ・「新井淳一展（仮称）」 2022年 10月1日（土）～1月15日（日）
- ・「多摩美術大学博士課程展 2023」 2023年 3月1日（水）～3月15日（水）

② 博物館実習

- ・学内博物館実習希望者（※）に対し延べ約60日の館務実習を行い卒業後の社会活動への意識を高めると共に美術活動に於けるひとつの実践研修を目的とする

※2021年度受入実績約70名

- (a) 個別実習…作品の取り扱い、企画立案を含むプレスリリース制作と発表
- (b) 全体実習…ミュージアム及び学芸業務に関わる有識者による現場に特化した専門講義の開講

※希望があれば他大博物館実習生の受入れを行う（近年の受入れ：国土館大学・中央大学・桜美林大学・東京農大など）

③ 収蔵作品調査

- ・600点を対象に撮影とコンディションチェック、調書記入、簡易クリーニングを進め、引き続き、作品の収蔵形態（所有・寄託・一時預かりの区別）の明確化と諸手続きを進めるとともに、作品の来歴（展覧会や所蔵の経緯など）の調査を進める（5箇年計画3年目）

④ 収蔵作品データベース構築…アートアーカイヴセンター/図書館/大学院/芸術人類学研究所と協同するポータルサイトを通じ学内情報共有化に向けた体制の一翼を担う

- ・調査済みの収蔵作品情報（約1000点）を、データベース内のリスト項目を記入・公開する
- ・従前のリストをあらためて再検証し、情報の信憑性が確かめられた項目についてをデータベースに登録してゆく

⑤ 施設・収蔵環境整備

- ・専門家を交えた館内（収蔵庫・展示室）における温湿度・生物類（カビ・害虫など）の環境調査を継続すると共に、2021年度改修箇所について温湿度変化を測定し環境の安定性を見極めてゆく
- ・多摩市策定のハザードマップに則った水害対策を講じてゆき、施設面での危機管理体制を確立してゆく

⑥ 教育普及活動

- ・多摩市教育委員会または同市小中学校を中心とした、情報伝達と生徒団体受け入れの誘致
- ・多摩市との連携および多摩センター地区における文化施設の連携強化を進めたアートの啓蒙活動を通じ、自治体・地域の課題解決に寄与するとともに、本学の情報発信に努め、今後、見学授業やワークショップなどに本学学生が関わる基盤を整えてゆく

⑦ 生涯学習センター「あそびじゅつ」への会場提供

- ・年度内3期（春・夏・秋）にB1F多目的室または3Fミニシアターの会場提供を行い、修学児のアートへの関心と社会人の学び直しとなる活動に協力する

◆附属メディアセンター

① 事務室

- ・Adobe Creative Cloud 利用促進支援（継続）
 - (a) Adobe による初心者向け講座実施（2021年度～）

- (b) 初心者向け講座の内容の反復（後日動画閲覧）（2021年度～）
 - (c) コンピュータスタジオにサポートスタッフを置く等のサポート体制を整える（2021年度～）
 - ・業界最新の情報を得る機会の創出…2021年度実施の「Adobe 3D オンラインセミナー」（アドビ株式会社の3Dツール「Substance 3D」と3D業界の最新動向紹介）や、企業によるモデリング・テクノロジーに関する最新技術のオンライン・レクチャーに続く、セミナー等を開催する
- ② 情報センター
- ・2017年度導入のサーバ更新（@tamabi ver.6）による機能強化
 - (a) インターネットへの負荷分散
 - (b) WEBフィルタ動作改善
 - (c) POPS リバースブルート攻撃対策
 - (d) DHCP 枯渇対策
 - ・各部署のNAG（ネットワーク管理担当者）機能の見直し…オンライン活用検討チーム、株式会社設立準備室主導の元で実施される全学的なネットワーク整備に合わせて、NAG機能を廃止し別の方策を検討する
- ③ 映像センター
- ・映像スタジオの充実化
 - (a) 学生制作（映像編集、3DCG制作等）を支援するため、高スペックPCを増設する（1台）
 - (b) 液晶タブレットブースPC3台の更新により、全モデル動画編集、3DCG制作を可能とする
 - ・Studio FabCaveとの連携…3Dプリントデータ作成、データ修正、3D出力をサポートし、Studio FabCaveとの連携を図る
 - ・対面サポートの促進…感染症対策（ソーシャルディスタンス等）のため、希望者の多い3DCGソフトの（ZBrush, Maya, Blender）の入門動画コンテンツを作成し学生が参照しながら作業可能とする
 - ・メディアホール、撮影スタジオ、メディアルームの使用対策
 - (a) コロナ禍においては感染症対策をとった上での使用とする
 - (b) メディアホールに関しては竣工から20年経過しているため、吊物関係の大規模修繕工事（トラス、トラスバトンのみ再利用）を行う（工事期間は2月下旬から4月上旬期間を予定）
 - ・写真センター
 - ・施設・機材の有効活用
 - (a) 管理施設・機材の各科授業への提供
 - (b) 一部授業については講習と実習をサポート
 - (c) 授業以外の時間帯は学生の自由使用時間とし、制作に必要な施設・機材を提供
 - ・講習会の開催

- (a) 写真制作に必要な知識や技術の取得、また施設・機材の有効利用のため各種講習会を開催（施設利用資格取得 3 種 / 知識・技術系 5 種）
- (b) 一律の講習で補えない相談や希望については可能な限り個別で対応
- ・貸出機材の更新
 - (a) 主にデジタル関連機材を拡充。フィルム関連については現状を維持。
 - (b) ミラーレス一眼ニコン Zfc（4 台）を旧機種（一眼レフタイプ）と入れ替え
 - (c) ニコンミラーレスカメラ用交換レンズの拡充
 - (d) 貸出用ライティングソースの拡充（オンカメラフラッシュ Profoto A10 と、オフカメラフラッシュ Profoto B10X を導入）
- ・施設・設備の更新と維持
 - (a) 各施設・設備の定期メンテナンス
 - (b) 撮影スタジオ設備は必要に応じてアクセサリを拡充
- ・工作センター
 - <八王子>
- ・第三者機関による安全衛生診断に基づき安全第一の運営を行う
 - (a) 利用時間・方法
 - ア. 工作センターを利用する授業実習科目・課題の担当教員は、利用者の名簿・工作センター利用期間及び時間帯・希望工作機械の機種・作業内容等の詳細を記載した要望書を、工作センターと事前に打ち合わせをした上で提出
 - イ. 従来区切られていた学年ごとの利用時間の区切りをなくし、全学的に 1 限～4 限を利用時間とする
 - ウ. 時間外での利用については、授業実習科目・課題の担当教員と工作センター間で使用する工作機械と具体的な期間や時間について打合せを行う
 - エ. 事前の打ち合わせで時間外利用の詳細が決められた場合は、日時の予約をした上で研究室との連携を図りながら学生利用をさせる
 - (b) 工作機械の使用条件
 - ア. 工作機械を使用する際は、事前に説明会・講習会等を受講させ、工作センターの仕様にあった加工方法で安全に使用させる
 - イ. これまでの改善により工作機械の安全性は向上したが、学生の単独使用不可の危険性の高い工作機械については予約制とし、工作センタースタッフが立ち会いのもと使用させる
 - (c) 工作センターではさまざまな学科の授業実習科目・課題が行われており、利用者の傾向に応じて既存の使用システムを再検討するとともに、引き続き、新しく安全性の高い工作機械の導入等のための情報収集を行う
- <上野毛>
 - (a) 安全衛生診断に基づき安全第一の運営を行う…毎年 3 月に中央労働災害防止協会の安全診断を実施し、指摘箇所の改善をすすめながら安全を最優先で工作機械を学生に利用させる（2020 年、2021 年は新型コロナウイルス

感染症の影響で中止)

- (b) 工作機械の講習会の実施…基礎的な工作機械の利用は各研究室と事前打ち合わせの上、学年単位または授業単位で講習会を実施し、その他の工作機械は教員や学生の要望により実施する
- (c) NC 工作機の利用促進…複雑で高精度な切削加工をする場合、汎用機によるアナログ的な加工方法から NC 工作機による加工に移行するための準備を進め、特に CAM の環境を整え、職員の技能を向上させる事により学生の要望に対応できるようにする
- (d) 感染症対策の継続
 - ア. 各工作機械室の入室可能人数の制限をする
 - イ. 入退出時の手指のアルコール消毒と使用後の工作機械の消毒を継続する

⑥ CMTEL

- 基本計画
 - (a) 「素材の資料館」として、Color (色)・Material (素材)・Trend (傾向)の情報収集、発信を行い、学内だけでなく学外のクリエイター、企業へ向けて開かれた施設運営を目指す
 - (b) 学生の作品のクオリティをより高めるため、従来よりも学生の利用者・来館者数を増やすことに重きをおく
- 展示収蔵品の収集、充実、管理
 - (a) 素材、資料、トレンド資料の収集、既存展示品、参考作品の更新・追加
 - (b) 既に提供いただいている素材を目につきやすく手に取りやすい配置・展示方法を模索する
- 学生サービスの充実
 - (a) 学生の制作活動に対するサポート (制作相談窓口/制作の手助け/企業への問い合わせ)
 - (b) 全学生対象に、ワークショップ、トレンドセミナー等、素材や技術の知識を育めるようなイベントを開催する
 - (c) 導入機材の事前レクチャー、利用予約体制見直し
 - (d) 学生向け CMTEL 見学ツアーの開催 (学科単位・研究室対象等、要望があれば随時実施)
- 学内、学外へ向けた広報活動
 - (a) 広報ツールを制作し活用する (パンフレット制作・ホームページに加え、CMTEL NEWS 発行・発行・Twitter からの情報発信)
 - (b) 学外見学者、企業、利用者受け入れ
 - (c) オープンキャンパスイベントの実施
 - (d) 学校見学者へ向けたワークショップの実施 (中学生、高校生対象/要請があれば随時)
- 授業・他部署・研究室への協力
 - (a) 施設の授業利用 (貸切可能)

- (b) マテリアルサンプル貸出（研究室単位、教員または学生（講評会の参考用）への貸出）
 - (c) 授業・ゼミ向けワークショップ・レクチャー開催（要望があれば随時実施）
 - (d) 各学科・部署への制作依頼・展示の協力
- ⑦ F a b C A V E
- ・ファブリケーション施設運営
 - (a) 初心者に対する、3Dプリンターやレーザー加工の制作支援を行う
 - (b) 適宜、各機器に関する講習会を行う
 - (c) Anduino や Raspberry Pi などの制作物への組み込み支援も行う
 - ・映像センターとの連携（3Dオブジェクト作成・修正）…3Dデータを作成できるソフトウェアを持っていない学生に対し、映像センターにある ZBursh, Maya, Blender などの入ったPCで3Dオブジェクトを作成してもらう
 - ・各棟ギャラリー展示のVRアーカイブ化
- ⑧ 上野毛スタジオ
- ・運営方針
 - (a) 上野毛スタジオが管理する5つのスタジオ施設を主体として、制作環境を学生に提供する。また機材スタジオを整備し、各科授業及び学生に機材を提供し、有効活用してもらう
 - (b) 各スタジオは予約制のスタジオと自由使用のスタジオとし、制作に必要な機材貸出を行う
 - ・講習会の開催…各スタジオの利用・制作に必要な知識や技術について、講習会を開催する
 - (a) 写真スタジオ（ストロボ撮影等）
 - (b) 撮影スタジオ（LED 定常光照明の撮影等）
 - (c) 録音スタジオ（録音とミキシング等）
 - (d) 映像スタジオ（照明、バトン、PA等）
 - ・機材の整備…統合デザイン学科と演劇舞踊デザイン学科の2学科と相談の上、上野毛スタジオにとって必要な施設、機材を整備する

◆附属アートアーカイヴセンター

【事務室】

- ① アートアーカイヴセンター（AAC）の運営強化
- ・ AAC 運営委員会開催ほか、研究所員や資料代表者との定期的な会合を開催
 - ・ 外部アーカイヴ機関との関係構築
 - ・ 研究施設補助金申請
 - ・ 各学科と連携させた研究会の設定と研究会サポート（瀧口、東野、デュシャン研究会等）

- ・資料閲覧（公開）可能な資料体を増やす
 - ・資料体の活用支援（科研費、共同研究、授業）
 - ・資料・画像貸し出しの事務手続き（手数料等）の設定
 - ・各資料体の代表者等の役割設定と代表者等の選定
- ② 収蔵庫の環境整備（IPM 構築）
- ・収蔵庫の燻蒸計画
 - ・各室の温湿度管理と設備整備
 - ・収蔵庫内の清掃と整理整頓の徹底
- ③ 各資料体の管理【和田誠アーカイヴ、大野美代子アーカイヴ、もの派アーカイヴ、瀧口文庫、北園文庫、文様研究資料、横山操・加山又造アーカイヴ、秋山邦晴文庫、DNP ポスターアーカイヴ、佐藤晃一アーカイヴ、勝見勝資料、三上晴子アーカイヴ、竹尾ポスターコレクションなど】
- ・資料の保存、保全
 - ・資料の整理とリスト作成
 - ・データベース構築
 - ・資料貸し出し対応
 - ・資料体の伝来調査
- ④ 活動内容および研究成果の発信活動内容および研究成果の発信
- ・AAC 研究紀要 4 号制作
 - ・AAC 研究紀要英語版 1 号制作（オリジナルサイトにて掲載）
 - ・オリジナルサイトにて AAC の取り組みや資料体の活用報告等を公開（研究会、授業利用等）
 - ・研究用ポータルサイト構築（大学院、美術館、図書館等との連携強化）
 - ・第 5 回 AAC 主催シンポジウムの開催（12 月 3 日予定）
 - ・本学教員、学生に向けた AAC 見学会の開催
- ⑤ アートテークギャラリー管理運営
- ・約 30 の展覧会実施サポート
 - ・施設利用に関する安全面、衛生面等に関する取り組みの徹底
 - ・関係機関との連携した情報発信サポート
 - ・ギャラリー使用申請の期間や時期の見直し

◆生涯学習センター

- ① 生涯学習プログラムの強化
- ・現状の課題と発展させるべきものの洗い出し
 - ・改善案の策定と実施
- ② 本学の持つ潜在的な力・リソースを掘り起こし、社会・地域へアピールする場としての生涯学習事業を企画立案
- ・教員の活動・発表・研究等を調査し、講座企画へと繋げる
 - ・参加実績のない教員への働きかけ

- ・ 社会人の学び直しに対応したプログラムの企画立案
- ③ 上野毛・八王子キャンパスそれぞれの特色を生かした旗艦講座の検討
 - ・ 上野毛…連続シリーズ『〇〇世紀の芸術家列伝』などの大規模講座による、上野毛の文化的・教育的土壌を踏まえた展開
 - ・ 八王子…連続講演シリーズ『世界の美術館』『この一点』の広報強化
- ④ 生涯学習センター年史(仮称)の発行
 - ・ 生涯学習センター発足から現在までの生涯学習活動および理念を纏めた冊子を発行、関係機関・関係者に頒布することにより、『多摩美の生涯学習』の周知と、今後どうあるべきかを学内外に示す
- ⑤ 活動記録を広報への活用および連携事業等への展開に活かす
 - ・ 媒体展開 (WEB や自治体広報との連動等) を視野に入れた報告の検討

◆芸術人類学研究所 (IAA)

- ① 「芸術人類学」という概念を検討し直し、研究所に集約されている所員たち個々の活動を、あらためて大学全体の教育という観点から抜本的に再考する
- ② リベラルアーツを「学理」の側面から支えるとともに、アートアーカイヴセンター・図書館・美術館・メディアセンターと連携し、それらの組織の媒体となる
- ③ 科研費等をはじめとする外部資金獲得に向けて組織的に討議を重ね、その規模を拡大しながら外部資金獲得を目指していく
- ④ 芸術学科やリベラルアーツセンターと密接な関係をもち、研究会・プロジェクトの研究成果を、アートとデザインを横断する全学を対象とした授業へ還元する

(2) 管理運営面の推進計画

◆大学戦略室

- ① 学校経営に関する企画と提案
 - ・ 「世界に存在感のある大学となる」という理事長ミッションに対して、具現化のためのアクションプラン策定による目標設定の提案
- ② 大学史資料を活用した展示及び今後の大学史編纂に向けた準備
 - ・ 大学史資料委員会設置の検討
 - ・ 大学史資料の調査・整理及びリスト化・アーカイヴ化

◆広報部

【広報課】

- ① 広報メディアのクオリティアップ
 - ・ 「世界に存在感のある大学となる」ためのブランディングメディアの確立
 - ・ 志願者獲得媒体の強化
- ② 大学広報の強化
 - ・ 21世紀の美大イメージの確立による大学のブランド価値向上にむけた取り組みプランの作成と提案

- ・目標の達成のために学外との連携の窓口となり、関連部署と連携しながら遂行する
- ・ブランディングを受験者増加に繋げるための広報プランの作成と提案
- ・六本木デザインHUBのTUB(Tama Art University Bureau)の運営と情報発信
- ・アーツ千代田 3331 アキバタマビの運営と情報発信
- ・パブリシティ獲得にむけた情報発信の強化のためのリリース発信を増強

③ 学生募集広報の強化

- ・志願者数の確保とともに、多様な学生獲得に向けた、オープンキャンパス、進学相談会、高校ガイダンス、学校見学や高校訪問の実行
- ・高等教育に関する情報収集、分析、調査、統計を行い基本情報の整備
- ・教育成果の内部評価と入試データ、就職データを連動させた分析が行えるデータベース作成
- ・入学試験に関する市場の調査並びに諸統計等の収集、分析、作成により、入試並びに入試広報に対応した提案
- ・志願者数の確保とともに、多様かつ優れた学生獲得に向けた選抜プランの作成と提案

【社会連携課】

- ① 地域社会との連携・社会貢献活動として地域の大学コンソーシアムに加盟し取り組みを実施
- ② 多摩美術大学クリエイティブリーダーシッププログラム（TCL）の運営と情報発信

◆総務部

【総務課】

- ① 事務組織の見直しによる体制の確立
 - ・理事長及び理事の意思決定サポート体制の整備
 - ・各委員会組織の権限・位置等の再点検
 - ・現行規程の点検・改正及び制定
- ② 情報共有化に向けた学内体制の整備
 - ・ワークフローシステムの円滑な運用
 - ・勤怠システムの定着及び対象者の拡大検討
 - ・グループウェアの見直し
- ③ 働きやすい職場環境の整備
 - ・行動計画（次世代育成支援対策推進法及び女性活躍推進法）実現に向けた対応
 - ・ワークライフバランスの推進
 - ・福利厚生の見直し
- ④ 危機管理体制の確立
 - ・危機管理上の課題に対する検討
 - ・災害時マニュアルの見直し、周知

- ・避難訓練の実施
- ⑤ 上野毛キャンパスの再整備
 - ・駒沢通り拡幅にかかる世田谷区との折衝サポート
 - ・耐震対応を考慮した今年度整備内容の調整
 - ・施設・設備・備品管理の円滑な実施
 - ・八王子キャンパスとの連携

【八王子庶務課】

- ① 施設・設備の改修整備
 - ・GHPエアコン機器更新（メディアセンターB1F～2F, テキスタイル棟 2F, 本部棟 2・3F）
 - ・EHPエアコン整備・機器更新（メディアセンター4F, 本部棟 2F）
 - ・ファンコイルユニット更新工事（デザイン棟 3F）
 - ・必要性に応じた施設の各種修繕
- ② 省エネルギーに伴う管理及びLED 推進・段階的整備
 - ・実習棟における LED 照明への段階的整備（彫刻棟・工芸棟・テキスタイル棟）
 - ・デザイン棟 3F、メディアセンター1F 照明に関する高演色機器の LED 化
 - ・省エネルギーに向けての学内状況分析と見直し
- ③ 共通施設の充実と快適・安全性に配慮した環境整備
 - ・キャンパスアメニティーの見直し
 - ・学内樹木の伐採を含めた維持・管理の計画策定及び実施
 - ・設備及び備品に関するコロナ対策の継続的対応
 - ・防火対策の推進、防災対策の検討
 - ・防災訓練の検討及び計画策定
 - ・警備会社変更（2年目）に伴う業務内容確認及び対応
- ④ 運営2年目を迎えた学生寮の管理整備対応
 - ・設備管理会社との連携
 - ・運営委託会社、寮長・寮母との引継ぎ
 - ・コロナ対策の継続的实施
 - ・学生の入寮対応
- ⑤ 各業務内容の見直し
 - ・6月・7月：業務の洗い出し及び見直し
 - ・物品購入・調達請求方法の見直し
 - ・学内倉庫の見直し検討

【人事課】

- ① 魅力ある職場づくりによる人材の確保
 - ・先輩職員参加による新卒採用の実施
 - ・横断型プロジェクト活動の推進

- ・研修制度の見直し
- ② 人事制度の確立
 - ・自己申告制度の実施
 - ・ジョブローテーションの実施
 - ・評価制度の見直し
- ③ 人事システムの見直し
 - ・現データの検証をし、新システムへの円滑な移行を図り、財務部との連携についても検討する
- ④ 個人情報管理の徹底
 - ・共済業務の円滑な対応
 - ・マイナンバーの収集及び管理
 - ・各種届出の適切な処理
- ⑤ 通報・相談等への迅速な対応
 - ・コンプライアンス通報への対応
 - ・ハラスメント通報への対応
 - ・各種相談に対する適切な対応

【情報推進課】

- ① 学内システムの統合
 - ・学費システムの Campus Square への統合（2023 年度）へ向けての準備調整
 - ・入試システムの見直しに向けた業務フローの整理
 - ・施設予約システムの検討

◆財務部

- ① 会計システムの更新
 - ・汎用的な会計システムに更新・安定稼働させ、財務報告の信頼性向上及び持続性の確保を図る
- ② 学納金管理システムの見直し
 - ・既存システムの更新を含め、業務フローの見直しを含めて検討し、業務の効率化を図る
- ③ 適格請求書（インボイス制度）の対応
 - ・2023 年 10 月からのインボイス制度開始に向けて、検討項目を洗い出し、関係部署との連携を図る
- ④ 財務の継続的な安定と、収入の基盤強化
 - ・資産運用収入の 10%増、寄付金収入の恒常的な 2019 年度比 30%増を目標とする
- ⑤ 予算制度の PDCA サイクルの確立
 - ・各研究室・部署の申請する予算科目を追加するなどの改訂をし、PDCA サイクルの確立による費用対効果の測定を実施

◆キャンパス設計室

- ① 教育及び研究体制の整備と再点検 …大学基準協会の認証評価に指摘されている改善事項への取組（2022年度中を目的）
 - ・ 前回の認証評価での施設に関する指摘事項を確認し、未実施内容について、確認・検証を行う
 - ・ 2021年度に纏めた点検・評価報告書に対する指摘事項に対して、改善案を策定し、実施に繋げる
- ② 専門性と総合性の融合を目指した改組による教育改革…学科の改組と入学者選抜の検討及び独立大学院の検討を含む大学院改革に対応した、全構成員の協働による「教育改革アクションプラン（仮称）」の策定と推進(2022年度中を目的)
 - ・ 上野毛キャンパス大学院設置検討に対し、機能と必要なスペース確保（既存施設・新規施設）の検討を行う
- ③ 教育・研究環境の充実に向けたキャンパス整備のための措置…上野毛キャンパス再整備と八王子キャンパスとの連携（5～7年以内）
 - ・ 上野毛キャンパスの、世界に存在感を示す大学のカリキュラムやコンテンツを発表・創作活動する拠点として、再点検を行う、
 - ・ 両キャンパスを視野に入れ、それぞれに於ける特徴や位置付け、想定される課題を考慮し、必要な機能を分担配置することで、連携を活性化させるよう促す
 - ・ 八王子キャンパスの再整備のため、改組と併せてマスタースケジュールを策定し直近～中期に於ける必要施設を確保するとともに、多様な将来へ対応できるよう柔軟性を持った施設計画とする（5～10年）
 - ・ 八王子キャンパスの大規模修繕計画作成と実行
 - (a) 本年度は「残りの彫刻棟群」および「工作センター棟」の実施を予定する（7月～11月）
 - (b) 安全確保、運営調整、コストデータの蓄積を行い、次年以降に反映させる
 - (c) 大規模修繕計画（骨子）について、現況を勘案し見直しを行う
 - (d) キャンパス全体でのスケールメリットを生かしたコストダウンに取り組む
 - (e) 大規模修繕計画より、次年度の建物について調整を開始する

以上